



注目ポイント

- ✓継続的な利下げの有無に注目が集まる米国については、このところパウエル議長を含めた複数のFRB高官から「利下げを慎重に進める考え」が相次いで示された結果、足元では12月のFOMCで利下げを見込む確率が半分程度まで低下。一方で、日銀による早々の追加利上げの有無が注目される日本では、先週植田日銀総裁が「政策調整のタイミングについては先行きの経済、物価、金融情勢次第だ」と述べ、12月利上げについて明確な地ならしをしなかった。
- ✓今週も日本では29日発表のCPI(都区部11月)を、また米国では26日発表のFOMC議事要旨(11月開催分)や27日公表の個人所得・個人消費支出(10月)等を確認しながら、日米の金融政策のスケジュール感を探る展開が続くことになるが、緊迫化するウクライナ情勢には注意が必要。(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2024年11月18日

～

2024年11月22日

市場・指標			11月18日 ～ 11月22日		11月22日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	38,560	37,945	38,284	-359	-0.9%	
	米国	NYダウ (ドル)	44,324	42,939	44,297	+852	+2.0%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	19,338	18,813	19,323	+112	+0.6%	

市場・指標			11月18日 ～ 11月22日		11月22日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年 (%)	1.095	1.055	1.080	+0.010	
	米国	10年 (%)	4.49	4.34	4.40	-0.04	
	ドイツ	10年 (%)	2.41	2.24	2.24	-0.11	

市場・指標			11月18日 ～ 11月22日		11月22日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル (円)		155.89	153.29	154.78	+0.48	
	ユーロ (円)		164.76	159.93	161.24	-1.42	
	豪ドル (円)		101.56	99.49	100.61	+0.87	

市場・指標			11月18日 ～ 11月22日		11月22日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト (ポイント)	1,694	1,662	1,682	+19	+1.1%	
	米国	NY原油 (ドル)	71.51	66.61	71.24	+4.2	+6.3%	
		NY金 (ドル)	2,743	2,592	2,737	+144	+5.5%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2024年11月25日 ~ 2024年11月29日

● 株式

自律反発期待も、上値重いか

 日経平均株価
【予想レンジ】 37,750 円 ~ 39,000 円

- 先週の日経平均は、日銀の追加利上げ観測を背景とした国内の長期金利上昇や、トランプ次期米大統領が掲げる関税の引き上げ等の企業業績への影響を警戒し軟調に推移。またウクライナ情勢の緊迫化により、21日には一時38千円を割り込む場面も。
- 今週の日経平均は、先週末の米株上昇の影響もあり、自律反発が期待されるが、引き続き上値の重い展開を予想。決算シーズン通過により、買い材料が乏しいうえ、緊張感が高まるウクライナ情勢は足枷となろう。ただし、株価が下落する場面においては、事業法人による自社株買いが増加することが予想されるため、株価の下落幅は限定的か。

● 金利
(国債)

長期金利はもみ合い、やや上昇か

 10年国債利回り
【予想レンジ】 1.060 % ~ 1.110 %

- 先週の長期金利は、石破政権の経済対策に伴う国債増発懸念の台頭や、22日発表のコアCPI(10月)が、市場予想を上回る伸び率となったことから、日銀による12月の追加利上げの可能性が意識されたことを受け上昇。ただし、投資家の押し目買いも散見されるようになり、10年国債利回りの1.10%には到達しなかった。
- 今週の長期金利はもみ合い、やや上昇か。長期債利回りは、投資家の買いニーズから限定的な上昇となっているが、政策金利の影響を受けやすい中期債(2年・5年)利回りは、約15~16年ぶりの水準まで上昇している。中期債利回りが、一段と上昇する展開となれば、長期債にも売り圧力がかかる可能性も。今週は、29日発表のCPI(都都区部11月)と、同日の新発2年国債入札に注目が集まる。

● 為替
(米ドル)

ドル円はもみ合いか

 米ドル/円
【予想レンジ】 153.00 円 ~ 156.50 円

- 先週のドル円は、ウクライナ情勢の緊迫化を背景とした、リスク回避的な円買いや、日銀の12月利上げ観測を背景とした円買いが勢いづく場面もあったが、ドル高のトレンドを変えるまでには至らなかった。
- 今週のドル円はもみ合いか。地理的にウクライナやロシアに近いユーロ・ポンド等への売り圧力が、側面からドル高を支える中、米国のインフレ率高止まりや、米経済の軟着陸期待から、FRBの追加利下げ観測が後退し、ドル買い円売りが強まる可能性がある。一方で、日銀による12月追加利上げ観測も根強いことから、一方向的なドル高円安が進むことはないだろう。



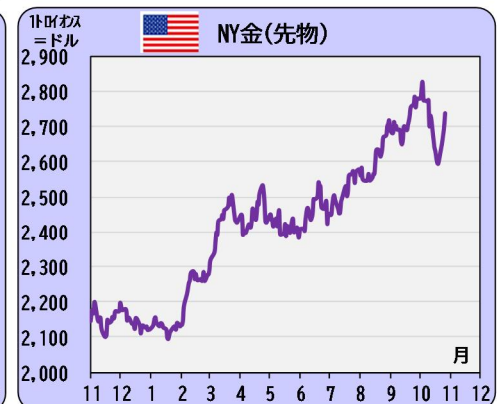
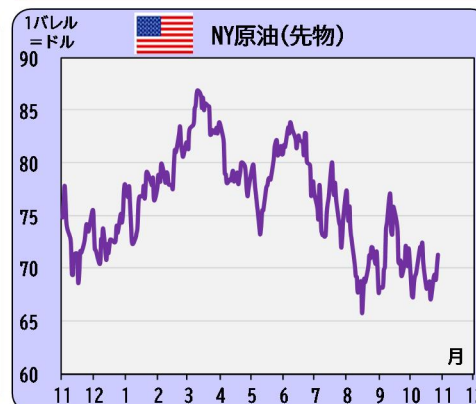
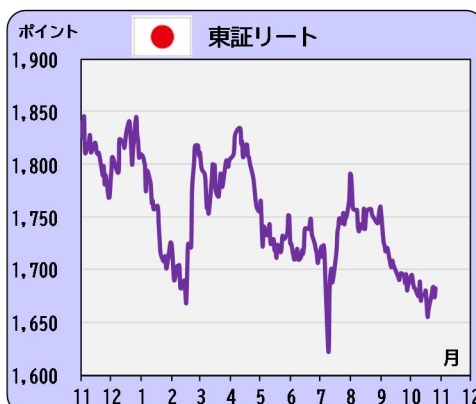
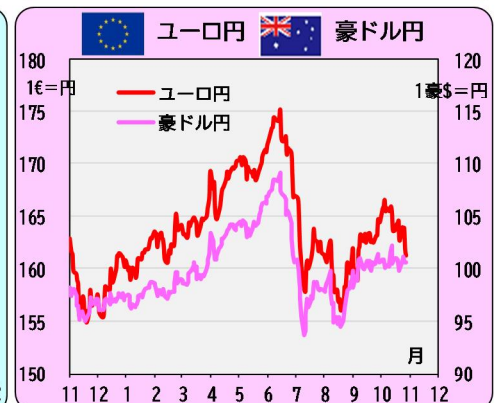
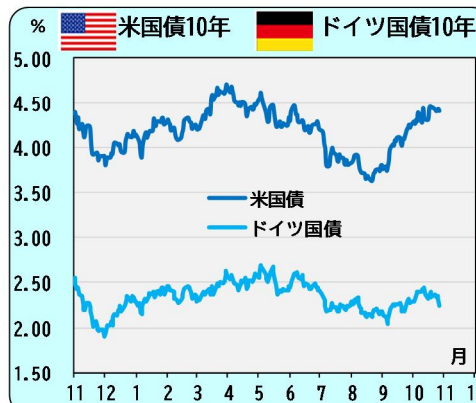
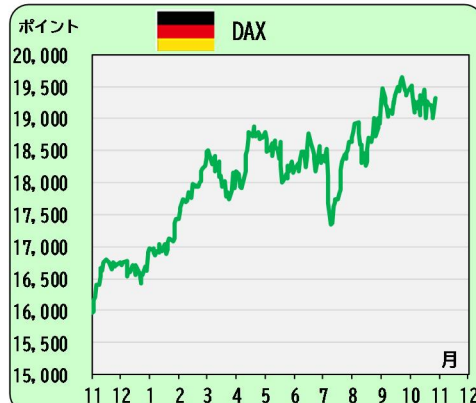
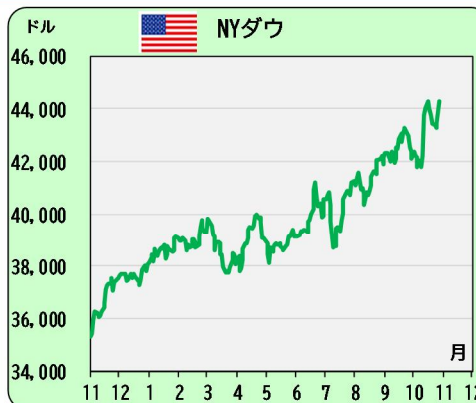
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
11/25(月)		米国: 国債入札(2年)
11/26(火)		米国: 新築住宅販売件数(10月) 米国: 国債入札(5年) 米国: FOMC議事要旨(11/6~7開催分)
11/27(水)	国債入札(40年)	米国: 国債入札(7年) 米国: 個人所得・個人消費支出(10月)
11/28(木)		米国: 祝日(感謝祭)
11/29(金)	国債入札(2年) CPI(東京都区部11月) 鉱工業生産指数(10月) 完全失業率(10月)	



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)
FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率	YCC	イールドカーブコントロール

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。